

岩城光英の永田町だより vol.235

6月になりました。今年は早くも梅雨入りしたようです。その分、早く夏本番を迎えることになるのか、あるいは長梅雨となるのか、気がもめるところです。

政府与党が、国会の延長を、ようやく決めました。大震災の復旧・復興に対して、第一次の補正予算は成立したものの、追加の予算措置が不可欠との判断から、民主党を除く全野党が強く求めていたものです。

6月22日の閉会をほのめかしていた菅総理も、ここに至って、会期延長の後、第2次補正予算を提出し、早急に成立させることの重要性を理解できたものと思われまます。

原子力災害賠償紛争審査会の第2次指針が発表（5月31日）され、農林水産業の出荷停止や耕作停止、観光業界の風評被害などが賠償の対象に加えられ、今後、賠償額の確定とその受け渡しが早期に実施されるよう、引き続き要求してまいります。

衆議院に自民・公明などが、内閣不信任決議案を提出（6月1日）しましたが、2日の衆議院本会議で否決されました。マスコミ報道その他では、かなりの接戦となることも予想されましたが、最後のところは、保身に身を委ねた民主党議員が多かったということでしょう。ともあれ、復興はスピードが肝心です。

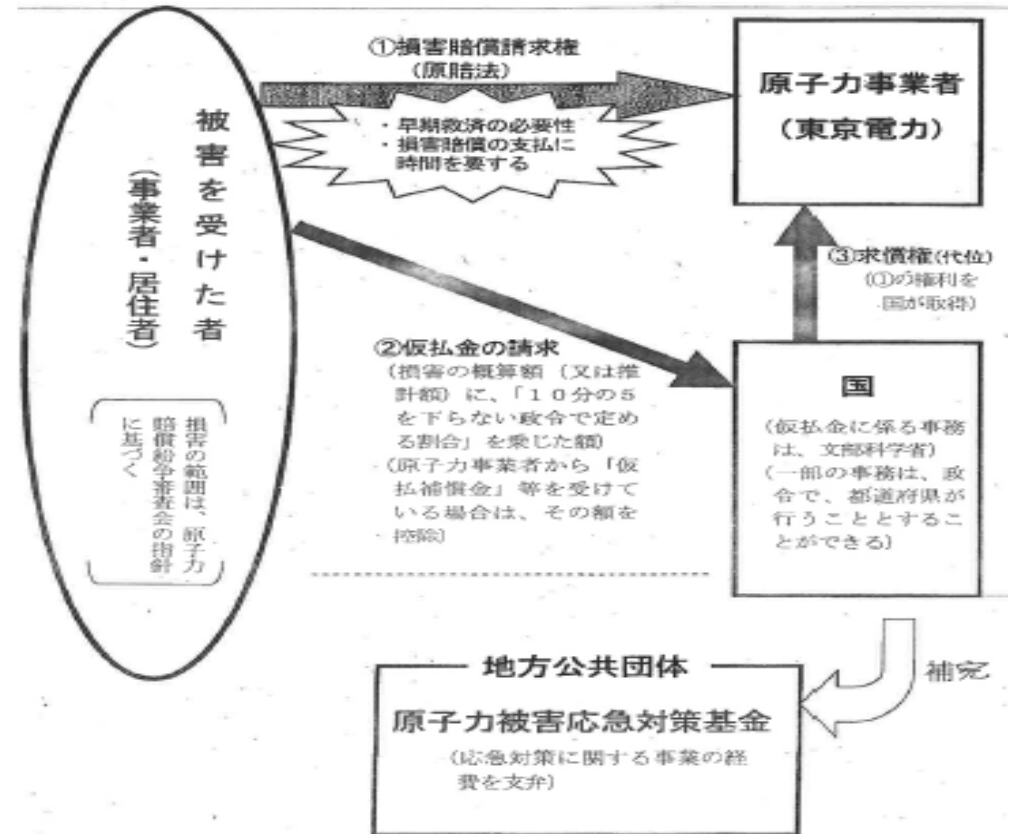
さて、今号では、私達、福島県選出の自民党国会議員団が中心となり、作成した法案についてお知らせいたします。

「原子力事故による被害に係る緊急措置法案」について

3月11日の巨大地震による津波が東日本の太平洋沿岸を襲い、不幸にも、東京電力福島第一原子力発電所が被災いたしました。そろそろ3ヶ月が経とうとする今日、事故処理の工程表は発表されたものの、その収束の目途は未だ不確かなものです。

現在も多くの方々が、県内外の避難先で不自由な生活を強いられております。この間、政府と東京電力は、周囲から見れば

平成二十三年原子力事故による被害に係る 緊急措置に関する法律案について



お互いに対する不信感や、責任の押し付けと見受けられる対応に終始し、危機にあって最も重要な、的確・迅速な対応が出来ずにあります。

現在、広範な賠償問題に関して、原子力賠償紛争審査会で協議されておりますが、自民党・福島県選出国会議員団は、東電が行うべき損害賠償の支払いに時間を要する現状を憂い、議員立法の検討を重ねてまいりました。①指針に定められた損害について、国が賠償金の仮払いを行う。②損害賠償の対象範囲

内・外にとらわれず、柔軟に支援を行える財源確保のための基金を設ける県に対して補助を行う、というものです。党内手続きは既に済み、他の政党にも働きかけ、被災3県の中でも、原発事故という難題を抱える福島県の特殊性を前面に打ち出し、早期成立に全力を尽くしてまいります。

「フラガール」

北野湘南

スーパーリゾートハワイアンズの呼び物となっているフラガールが、10月の営業再開に向けて全国キャンペーンを開始した。大震災とその余震による被害、さらに福島原発の近くにあるため風評被害など前途は、厳しい。しかし、ハワイアンズが、活況を取り戻せばいわき市とその周辺だけでなく、福島県全体が元気になる。がんばれフラガール。

ハワイアンズは、斜陽化した石炭に代わる事業として常磐興産が設立した大型リゾート施設。設立当時は、多くの庶民にとってハワイ旅行は、夢に過ぎなかったからハワイの雰囲気を楽しむリゾートとして開設された。その売り物の1つが、情緒溢れるフラガールのフラダンス。これが人気を呼んだこともあり、最初の年から120万人の観光客が押しかけ、事業は予想を上回る好調なスタートを切った。東日本大震災が発生するまで年間150万人の客を集めるディズニーランドと並ぶ大型リゾート施設だ。

ハワイアンズは、航空料金の値下がりにより格安で本物のハワイ旅行が楽しめるようになったり、世界的なリゾート施設であるディズニーランドの出現などこれまで何度も経営危機を迎えたが、徹底したサービス精神やハワイムードのリゾートから温泉と健康を売り物にするスーパーリゾートへの衣替えなどによって乗り越えてきた。宮崎県のシーガイア、長崎県のハウステンボスなどの大型リゾートが倒産したり、事業の大幅な縮小に

追い込まれた中で「成功しているのはディズニーランドとハワイアンズの2社だけ」といわれる数少ない成功例だ。ハワイアンズのサービス内容は大きく変化した、その中でもフラガールは、当初からシンボリックな存在で今でもフラガールの踊りはハワイアンズでもトップの人気ショーだ。

だが、発足当初は肌を大きく露出して人前で踊るには抵抗が強く、応募者は1人も無かった。仕方なく社員の娘を「会社のため」と押し倒してフラガールになってもらった。映画「フラガール」で全国的に有名になったが、これは実話に即して作られたもので、厳しい訓練や涙ぐましい努力があり、さらに現在でもそれを続けていることが人気の秘密だろう。このフラガールも大地震によってハワイアンズが壊滅的な被害を受けたことから避難所で地震の被災者を励ますために踊っていたが、5月からハワイアンズの営業再開キャンペーンの一環として全国を廻ることになった。既に2百件以上から「来て欲しい」の呼び声が掛かっており、依然として人気は抜群だ。

これまで何度かの危機を乗り越えてきたハワイアンズだが、今回は大地震に加えて東電・福島原発による放射能の風評被害に見舞われている。いわき市周辺は人通りもすっかり少なくなり、地元でも危機意識が高まる一方だ。10月に営業を再開しても風評被害などを乗り越えて元の姿に戻るのには容易なことではないだろう。だが、活況を取り戻せばいわき市を中心とする浜通りだけでなく、福島県全体が元気を取り戻す起爆剤になる可能性は十分ある。

映画は「人生には降りられない舞台がある。まちのため、家族のため、友のため、そして自分のため」を大きなテーマにしているとされる。最初は、廃坑に追い込まれた鉱山を救うため先頭に立ったフラガール。今回は巨大地震の被害と原発事故という過去に無かった巨大な危機から会社、地域と福島県、さらに東北全域に元気を取り戻すため、がんばれフラガール。